

シギ・チドリ類調査 ニュースレター

2022年度秋期概要版

環境省自然環境局生物多様性センター / NPO法人バードリサーチ

モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査 2022年度秋期調査結果の概要

全国106ヶ所のサイトで実施

2022年度秋期調査は、2022年8月1日から2022年9月30日までの期間に実施されました。全国106ヶ所（暫定値）のサイトで調査が実施され、このうち一斉調査（2022年9月18日を基準日とした前後1週間の調査）への参加は87ヶ所でした。一斉調査期間では、シギ・チドリ類47種9,557羽のほか、ヘラサギ1羽、クロツラヘラサギ62羽が記録されました。秋期の全サイトの最大個体数（調査期間内に記録された各種個体数の最大値）の合計は、シギ・チドリ類53種23,471羽のほか、ヘラサギ9羽、クロツラヘラサギ135羽、ズグロカモメ2羽でした。

前年度に比べ個体数は減少

2000年度秋期以降の「全サイト」と「継続サイト（調査が継続されているサイト）」のそれぞれの最大個体数の合計を、ヒレアシシギ類（年次変動が大きく、海上生活者であるため）を除いてグラフに示しました（Fig.1）。全サイトの最大個体数の合計は、前年度比、7,146羽減少し23,463羽、継続サイトでは前年度比、4,036羽減少して15,340羽となりました（前年度比、全サイトで23.3%減、継続サイトで20.8%減）。全サイト・継続サイトともに、個体数は、過去、最小レベルとなり、近年の傾向は、全サイトで減少傾向、継続サイトでほぼ安定傾向でした。

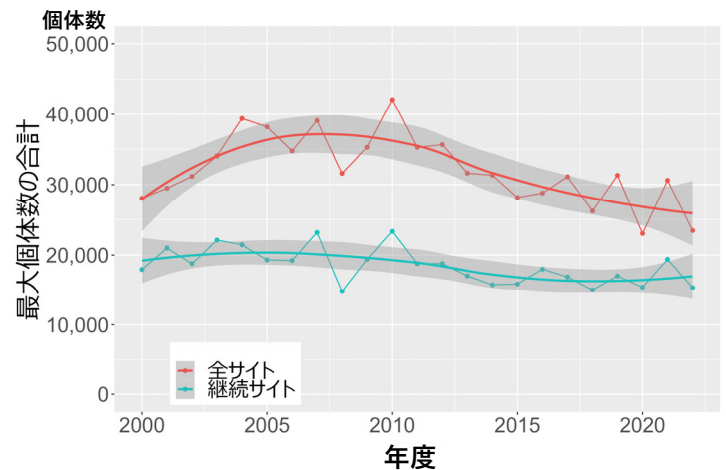


Fig.1 秋期調査における全サイトと継続サイトの最大個体数合計の推移（2000年度から2022年度の継続サイトN=41）年次変動の大きい海上生活者のヒレアシシギ類は除外

種構成で最も多くなったハマシギ

2022年度秋期調査におけるシギ・チドリ類の種構成比をみると、個体数上位は、ハマシギ（14.5%）、トウネン（11.6%）、ソリハシギ（11.2%）でした（Fig.2）。前年度よりもトウネンが降下して、近年上昇傾向にあるハマシギが1位となりました。2位となったトウネンは、前年比2,454羽減少し、減少数と減少率が突出していました（Table 1 右、Fig.3）。その他、長期的に見た順位の傾向として、3位のソリハシギ、7位のアオアシシギの緩やかな上昇傾向や、6位のキアシシギ、10位のシロチドリ降下傾向が見られました。

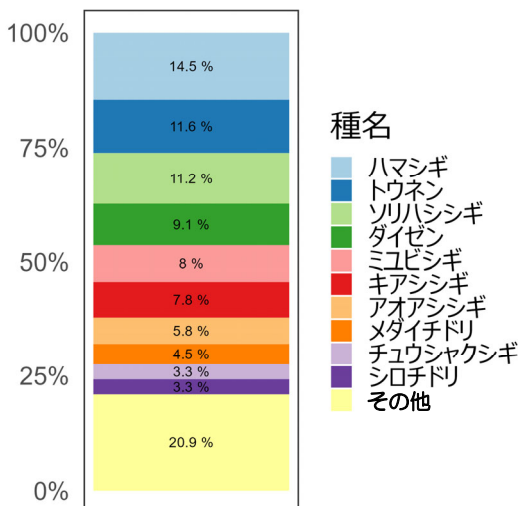


Fig.2. 2022年度秋期調査におけるシギ・チドリ類の種構成比

湿原や耕地を選好するシギがやや増加

種別最大個体数の前年度比較では、チュウシャクシギの増加数が最も大きく、26%増加していました（Table 1 左）。また、個体数はあまり多くないが、オグロシギ、コアオアシシギ、ツバメチドリ、ケリなど、湿原や水田、耕地などでよく観察される種が前年度と比べ増加傾向にありました。減少数の多い種では、前述のトウネンのほか、近年減少傾向にあるミコビシギ、キアシシギ、長期にわたって減少傾向にあるシロチドリが挙げられ、近年、個体数が増加傾向にあるソリハシギも今年度は約17%減少していました。

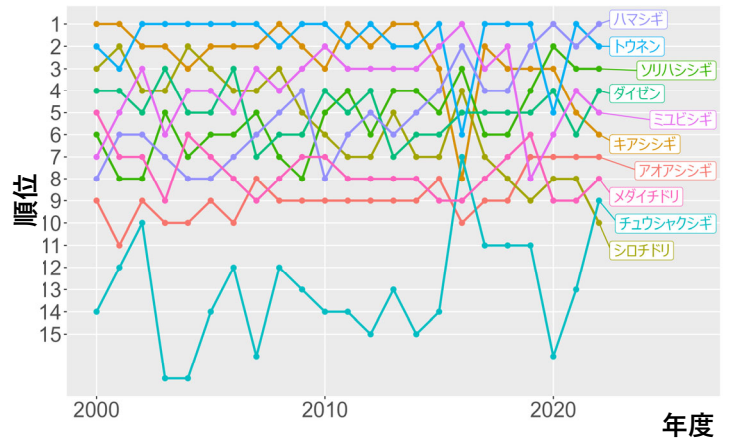


Fig.3. 2022年度秋期調査における最大個体数上位10種の順位の変化(2000年度から2022年度)

Table 1. 2022年度秋期 種別の最大個体数の前年度差 左:増加数上位5種、右:減少数上位5種

2022年度秋期最大個体数 増加数上位 (全サイト)					2022年度秋期最大個体数 減少数上位 (全サイト)				
種名	2021年度秋	2022年度秋	前年度差	前年度比	種名	2021年度秋	2022年度秋	前年度差	前年度比
チュウシャクシギ	621	784	163	1.26	トウネン	5,176	2,722	-2,454	0.53
オグロシギ	59	136	77	2.31	ミコビシギ	2,635	1,868	-767	0.71
コアオアシシギ	109	153	44	1.40	キアシシギ	2,550	1,839	-711	0.72
ツバメチドリ	9	47	38	5.22	ソリハシギ	3,157	2,620	-537	0.83
ケリ	215	245	30	1.14	シロチドリ	1,218	777	-441	0.64

北海道地域でトウネンが減少

最も個体数が多かったサイトは例年と同じく大授揚（佐賀県）となり、以下、白川河口（熊本県）、風蓮湖（北海道）の順でした。また、今年度秋期に50羽以上観察されたサイトのうち前年度比で減少数が大きかった上位5サイトは、濤沸湖（北海道）、高松～河北海岸（石川県）、風蓮湖、コムケ湖（北海道）、球磨川河口（熊本県）と北海道のサイトが3サイト含まれました（Table 2）。濤沸湖とコムケ湖ではトウネン、風蓮湖ではトウネンとキアシシギが、減少した個体数の多くを占めていたため、地域別に近年のトウネンの推移を見ると、北海道地域で、もともとは多かったトウネンが減少していました（Fig.4）。

Table 2. 2022年度秋期 サイト別の最大個体数の前年度比 減少上位5サイト

2022年度秋期 減少数 上位5サイト				
サイト	2021年度秋	2022年度秋	前年度差	前年度比
濤沸湖	923	174	-749	0.19
高松～河北海岸	1,141	405	-736	0.35
風蓮湖	1,840	1,136	-704	0.62
コムケ湖	1,001	402	-599	0.40
球磨川河口	1,085	498	-587	0.46



Fig.4. 過去5年秋期におけるトウネンの地域別最大個体数(平均値)の推移

モニタリングサイト1000 シギ・チドリ類調査 ニュースレター タイトル写真:ミコビシギ(守屋年史) 2022年度 秋期概要

発行元: 環境省自然環境局生物多様性センター

<https://www.biodic.go.jp/moni1000/>

編集: 特定非営利活動法人 バードリサーチ

<http://www.bird-research.jp/>

編集者 守屋年史

電話/Fax: 042-505-4044

メール: shigichi@bird-research.jp